

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
高知リハビリテーション学院		昭和55年12月22日	大倉 三洋		〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 (電話) 088-850-2311		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人高知学園		昭和26年3月13日	吉良 正人		〒780-0955 高知県高知市北端町100番地 (電話) 088-840-1111		
目的	本学院は、リハビリテーション技術者として必要な知識及び技術を修得させると共に、広い教養ある社会人を育成することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
医療	専門課程		言語療法学科				平成17年文部科学省告示第170号
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	162	106	40	16		
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		138人		7人	55人	61人	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 基準 80点以上:優 70～79点:良 60～69点:可 60点未満:不可 方法 小テスト 出席・授業態度 提出物 期末試験		
長期休み	■春 期: 3月21日～4月 3日 ■夏 期: 8月 6日～9月30日 ■冬 期: 12月21日～1月 7日			卒業・進級条件	進級条件:その年度に履修した授業科目の中で、未修得単位が基準(1～2年:15単位 3年:10単位)以下の者 卒業条件:4年以上在学し所定の単位(162単位)修得した者		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に近況を確認し、保護者との面談を行い適切な指導を行っている			課外活動	■課外活動の種類 老人施設、身体障害者施設での介助ボランティア ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 社会医療法人近森会、いずみの病院、南国中央病院、千里リハビリテーション病院、初台リハビリテーション病院 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 41 % ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	言語聴覚士国家試験受験資格		
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 3 % 平成27年4月1日時点において 在学者 145名 (平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において 在学者 141名 (平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 個人面談、三者面談、保護者面談会等を通じて適切な指導を行っている						
ホームページ							

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の医療・保健・福祉に関する知見を有する業界団体や職能団体、業務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職者等と共同し、教育課程を編成する。『リハビリテーション技術者として必要な知識及び技術を修得させると共に、広い教養ある社会人を育成する』を目的とし、教育課程編成委員会と連携して、高度な職業教育を通じて自立した職業人育成を目指せるような教育課程を編成する。今後の社会保障政策の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れることによって、教育課程に反映し改善させていく。また、教育課程編成委員会の委員所属先以外の企業にも、求める人材や最近の動向についての情報を収集し、その結果を教育課程編成委員会において活用している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は高知リハビリテーション学院教職員と企業関係者等の外部役員から成るものとし、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大倉 三洋	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
濱田 和範	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
栗山 裕司	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
平松真奈美	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
石川 裕治	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
近藤 眞一	特定医療法人防治会 きんろう病院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	②
和田 譲	医療法人五月会 須崎くろしお病院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	③
杉本 徹	医療法人 恕泉会 リハビリテーション病院 すこやかな杜	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	③
矢野 和美	社会医療法人 近森会 近森リハビリテーション病院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	③

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成28年6月17日 18:30～20:30

第2回 平成28年9月16日 18:30～20:40

第3回 平成29年3月17日 18:30～20:30(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

前年度の委員会において、企業委員より学生の読解力の欠如、自立心・コミュニケーション能力不足、及び診療報酬に即した授業内容の展開など意見が出され、本年度第1回委員会でカリキュラムを変更し、平成29年度より実施する新カリキュラムの内容を報告した。具体的には、読解力の向上に「文章表現法」、コミュニケーション力不足には「コミュニケーション論」を導入するなど、基礎分野に新しい科目を設けた。診療報酬に即した授業については、「理学療法概論」「作業療法概論」「リハビリテーション概論」「言語聴覚障害学総論」の講義の中で教育しているが、今後、更に詳しく説明をしていくことを報告した。なお、他の授業についても、時代に即応した講義内容を展開し、現代社会の状況、セラピストの職域、活動状況を捉えていくようにした。

本年度第2回委員会では、企業等委員よりこれから求められる人材として、自立心や向上心を持っていること、自分が何を求められているか理解し、イメージできること、目的意識を持っていることなど意見が出された。1年次より施設での体験・見学を推進し、目で見て耳で聞くことにより、セラピストの仕事を実感させ、目的意識を向上させるよう、授業内容を検討、改善していくこととした。

現場が求めるスキルとして、患者・医師・看護師等からの情報収集後の分析、カルテへの要点記入など、学生時代身につけたことが現場で活かすことができるといった意見が述べられ、これについては、日常の講義や学校行事の中で自らが考え実践できるよう、今後も改善に努め、より密度の濃い教育内容へと繋げていくこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
リハビリテーション技術者として必要な知識及び技術を修得させると共に、広い教養ある社会人を育成する』を座学だけでなく、実習や演習を通して身につけることによって、実践的かつ専門的なレベル・クオリティの高い人材を育成することを目指す。専門的かつ最新の動向の知識が必要な、専門科目については、業界に長年携わっている専門家の講師を招いて授業を行う。

臨床実習においては、全国にわたる病院・施設を実習受け入れ先として確保し、きめ細かい実習指導を受けることができるようにする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習前には学院の教職員と病院・施設の実習担当者が打合せを行い、実習内容や学生の学修成果の評価方法・指導方法等について検討する。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力修得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習終了時には、実習の講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、学院が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床現場において、言語聴覚士として必要な知識・技術について学ぶとともに、言語聴覚士に必要な知識の修得を目指す。	近森リハビリテーション病院、細木病院、いずみの病院、南国中央病院、愛宕病院 他 総数38施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教員を病院や施設、学会や研修会等に派遣し研修を行うことで、実践的かつ専門的な技術・技能の向上に努めさせており、これにより学生への指導へと活かしている。また、授業の進め方やシラバスの作成方法などについても随時見直しを行い、常に授業方法の改善を工夫する姿勢を教員に徹底させる。
学期毎に「学生による教員評価」を実施し、自己点検・評価委員長や学科長より個々の教員に結果を示しつつ、改善すべき点を指摘している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

第27回日本嚙下障害臨床研究会(日本嚙下障害臨床研究会)に参加した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

臨床実習における関連知識や指導能力を修得・向上するための研修としては、臨床実習指導者協議会会議の場に、専門の講師を招いて学外で研修を実施した。内容は、他校より講師を招いて「臨床実習 -現代の学生の特徴をとらえた指導について-」というテーマで本学院教員や病院・施設実習担当者に対して講義し、知識の定着と発展を図り、臨床実習指導に対するスムーズな知識発展に本学院学生を指導できるよう取り組んだ。また、第3回日本言語聴覚士協会養成校教員研修会(一般社団法人日本言語聴覚士協会)、第28回教育研究大会・教員研究会(一般社団法人全国リハビリテーション学校協会)に参加し、教授法や学生指導について研修した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修としては、研修規程に基づいて個々の教員に必要な研修を判別して計画的に受講させることを計画している。28年度は第17回日本言語聴覚学会養成研修会、第12回四国言語聴覚学会(一般財団法人日本言語聴覚士協会)、第28回日本嚙下障害臨床研究会(日本嚙下障害臨床研究

② 指導力の修得・向上のための研修等

学生に対する指導力を修得・向上するための研修としては、第29回教育研究大会・教員研究会(一般社団法人全国リハビリテーション学校協会)、第43回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会(厚生労働省・(公財)医療研修推進財団)に参加。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会の提言を踏まえ、学校運営、教育活動等のガイドラインの評価項目について、課題を検討・改善することで、学校の質の向上を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

【学生募集について】

高知県内の高校生が減少する中で、県外からの入学生を一定割合確保することの必要性が指摘され、今後の募集活動及びその方法について更に検討することとした。

四国内の進学説明会への参加や四国内の高等学校に定期的に訪問する回数を増やし、受験生や保護者、高等学校の教員に対し、本学に興味を持ってもらうようアピールした。また、本学院オープンキャンパスに県外の受験生が参加した場合には、各学科の教員がその高等学校を訪問し、本学院の募集内容を説明するなど、きめ細やかに対応している

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山本 孝利	特定医療法人防治会	平成27年9月15日～ 平成29年3月31日	業界団体 等役職者
元吉 明	特別養護老人ホームとさの里	平成27年9月8日～ 平成29年3月31日	卒業生
羽方 法男	高知リハビリテーション学院後援会	平成27年9月8日～ 平成29年3月31日	保護者
森澤 英世	有限会社森澤食品	平成27年9月10日～ 平成29年3月31日	地域住民
江渕土佐生	土佐市議会	平成27年9月8日～ 平成29年3月31日	地域の地方公共団体関係者

大倉 三洋	高知リハビリテーション学院	学校関係者	学院長
濱田 和範	高知リハビリテーション学院	学校関係者	教務部長
清岡 学	高知リハビリテーション学院	学校関係者	学生部長
池田 敏宏	高知リハビリテーション学院	学校関係者	事務長
森 暁	高知高等学校	学校関係者	学校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())・公表時期:平成28年9月28日

URL:<http://www.kochi-reha.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携して学校運営を行っていくために当該企業等に対して、本校の現状について定期的に情報提供していくことを基本方針とし、年2回は意見交換会を行い情報共有や意見交換会を行っている

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL:<http://www.kochi-reha.ac.jp>

授業科目等の概要

(専門課程言語療法学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	人間のかかわるあらゆる分野に接点をもつ心理学の基礎を学習する	1前	30	2	○			○		○		
	○		文学	日英米の文学作品を読み、文学の言葉の特徴を分析する。紹介する作品の中からいくつかを選び、受講生自身そのスタイルをまねて作文を試みる。	1後	30	2	○			○			○	
	○		哲学	現代社会の哲学的・倫理的問題を多角的に検討し、問題解決の可能性や道筋を考えていく。	1前	30	2	○			○			○	
○			教育学	教育とは何かを確認し、学院での生活(学問)をどう過ごしていくべきなのかを考える。また、いろんな経験を通して、それら活動の目的、手法等について考える。	1前	30	2	○			○		○		
	○		社会学	過疎地域の状況について全国、高知県、市町村レベルでの高齢化状態や生活問題について、統計データや地域調査の結果を踏まえながら、わかりやすく説明する。また、地域福祉活動についても紹介する。	1後	30	2	○			○			○	
	○		医事法	以下のテーマについて学習することで、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の身分や業務が法令でどのように規制されているかを学ぶ。そして、診療補助を行う上に関係する医療の法律や制度をそして関連する保健・福祉に関する法律についても知る。	1前	30	2	○			○		○		
○			統計学	スライドを用い、基本統計量の定義、標本から得られる統計量から母集団の平均値、百分率などを推定する方法、集団間の関係を検定する手法を講義する。また、2変量の相関や多変量の統計分析の考え方についても触れる。基本的に教科書に沿って講義し、Excel関数を使って教科書の例題や演習問題を解く方法を実習する。これにより、専門分野の実験や調査によって得たデータを整理し、統計分析する手法を身につける。	1後	30	2	○			○			○	
	○		生物学	生命現象を細胞レベルから解説するとともに、刺激と反応および動物の行動についてそのしくみから概説する。	1前	30	2	○			○			○	
	○		人間工学	体の動きの原動力は、物理学での力学をもって説明することができる。生体力学理解のため、生体各部位での、かかる力の理論的数値の計算もしてみる。	1後	30	2	○			○		○		

○		英語 I	医療、健康、社会、生活などの身近な話題を中心に、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく学び、将来の仕事に役立つ英語によるコミュニケーション能力の養成を目的とする。	1前	30	2	○			○		○
○		英語 II	医療、健康、社会、生活などの身近な話題を中心に、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく学び、将来の仕事に役立つ英語によるコミュニケーション能力の養成を目的とする。	1後	30	2	○			○		○
		○ 英会話	This is an elementary level course that aims to improve the students English comprehension and Speaking skills. (学生の英語への理解力や会話能力を上達させる目的の入門レベルコース) The activities are designed to build confidence in using the English language patterns and vocabulary learnt in high school. (基礎英語や高等学校で理解した単語を用いての文書作成) Lessons will include pair and small group activities and allow a chance for intercultural exchanges with the teacher. (講師との異文化交流を考慮した2人1組や少人数でのレッスン)	1通	60	4	○			○		○
		○ ドイツ語	テキストを通して、ドイツ語の文章と文法を学ぶ。ドイツ語と英語は同系統の言語なので、両者の関連性を考察しつつ、授業を進める。授業ではまず最初にヨーロッパ語の系譜を説明する。次にアルファベットや発音の規則を学ぶ。次に、テキストを利用して、ドイツ文を読みながら、文法を学んでいく。1年間の授業を通して、初級テキストを辞書を利用して読解できる程度の実力を養成する。	1通	60	4	○			○		○
		○ フランス語	仏語の講義を通して文化や考え方の違いを知ってもらう。	1通	60	4	○			○		○
		○ 中国語	聞く、話す、書く、読むという四技能をバランスよく基礎から学習し、簡単な日常会話や文書能力を習得する。また現代中国事情にもふれ、中国に対する理解と関心を深める。	1通	60	4	○			○		○
○		健康科学	近年、生活水準の向上、余暇時間の増加に伴い健康づくり、体力づくりに対する社会的関心は大きな高まりをみせている。このような状況下でリハビリテーションの領域も治療から予防へと拡大してきており、地域住民の健康管理、健康指導に関わる機会も多くなってきている。健康の維持増進のためには運動の・栄養・休養の三条件をバランスよく保つことが基本条件とされている。ここでは、主に健康と運動についての理解を深めるとともに、体力測定を通して、健康や体力の知識を深めることを目的とする。	1通	60	2	○			○		○

○		解剖学	人体を構成する基本構造（骨・筋肉以外の神経、血管、内臓、感覚器）について学ぶ。	1後	30	2	○		○		○
○		解剖学演習	聴覚器系では、外耳、中耳、内耳等、発声発語器官では、口腔、咽頭、喉頭等、中枢神経系では、大脳、脳幹、神経路等についての知識を学ぶ。	1通	60	2		○	○		○
○		生理学	正常の生体は外界からのさまざまな刺激に反応し、状況の変化に対応し、その生命を恒常的に保つべく適応する能力を持っている。生理学はその機能を学ぶ学問である。これが医学において疾病の原理を理解する基礎となる。生理学を学ぶことは、単に生体の機能に関する知識を得るのみならず、予測不可能な種々の状況におかれた際の各個人の適応力、思考力を養う。	1前	30	2	○		○		○
○		病理学	病理学は疾病の原因、経過および結果を追求し、それらを体系化して理解することにより、疾病の本態を究明する学問であり、臨床に直接かかわりのある総合的な基礎科目である。必要不可欠な疾病の特徴や病変の概要を理解することを目的とする。得られたデータから病変・疾病を考察することにより、問題発見および解決能力を身につけることができる。	1後	30	2	○		○		○
○		一般臨床医学	医学及び医療の歴史、感染症とその対策、現代の新たな医療における技術革新と生命倫理、医学及び医療の臨床について学ぶ。さらに、人体の構造と機能の破綻によって発症する疾病の診断と治療、リハビリテーションの役割について学ぶ。	2前	30	2	○		○		○
○		内科学	一般内科で扱う多くの疾患の症候や病態生理を理解することによって、将来臨床現場で医療スタッフとしてチームを組むための基礎知識を習得する。とくに内科疾患の診断・治療における流れを把握するために「ことば」を覚えてもらいたい。	2通	30	2	○		○		○
○		小児科学	成長、発達段階にある小児の特性をふまえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患について理解を深める。	2後	30	2	○		○		○
○		精神医学	精神・保険・福祉および臨床精神医学一般についての学習を通して、リハビリテーションスタッフとしての精神医学援助の基礎を学ぶ。	3前	30	2	○		○		○
○		リハビリテーション障害学	急性期、回復期、生活期の流れの中でリハビリテーションのあり方を知る。	2前	30	2	○		○		○
○		耳鼻咽喉科学	ヒトをヒト以外の動物から区別する機能の一つに言語機能がある。ヒトの成長過程における言語機能の獲得は、聴覚による理解から始まり、つづいて発語（喉頭における発声に基づく）、最後に文字言語の使用へと進められる。耳鼻咽喉科学は言語理解の最も重要な聴覚機能、音声言語機能の障害をきたす種々の疾患を扱う学問である。言語聴覚士として最低限必要とされる耳鼻咽喉科領域の疾患に関する知識を身につけ、理解を深める。	2通	60	4	○		○		○

○		神経内科学	神経内科疾患を理解しそれに伴う神経症状を知り今後に役立てる。	2後	30	2	○			○		○		
○		老年学	老年期にある人間の身体的・精神的健康の問題と対策。	2後	30	2	○			○		○	○	
○		臨床歯科医学	口腔は消化器の一部であり、また、摂食、嚥下、発音に関する重要な器官である。口腔の特性を十分に認識し、口腔機能障害の予防と回復に役立てるようにする。	2前	30	2	○			○			○	
○		聴覚系医学	聴覚系の構造・機能・病態について知る。	2前	30	2	○			○			○	
○		呼吸・発声・発語系医学	呼吸・発声・構音の産生機構・機序、病的状態、言語療法の目的。	2後	30	2	○			○			○	
○		神経系医学	脳の構造、神経系について学び、各疾患について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○		臨床心理学	臨床心理学の基礎知識と実践における臨床心理学を演習を通して学んでいく。	2後	30	2	○			○			○	
○		生涯発達学	「ひとりの人間」を理解するうえで必要な一生涯を通しての人間発達のイメージを形成し、様々な発達理論を基にしながら、各発達段階における心の諸側面について理解を深める。	1後	30	2	○			○			○	
○		学習心理学	障学習の諸理論を学び、経験と行動選択の関係について考察を深める。	1前	30	2	○			○			○	
○		認知心理学	言語聴覚士として、必要な認知機能が形成・獲得される過程とその機序、認知機能の諸相、および認知機能を背後で支える高次神経機構などについての知識を獲得する。	2前	30	2	○			○			○	
○		発達心理学	発達とは何か、何がどのように発達するのか、人間発達の理論的理解を深めるとともに、人間の心理的発達のプロセスを発達段階にそって具体的に捉えていく。	2後	30	2	○			○			○	
○		心理測定法	現在用いられている様々な臨床検査の基礎を成している精神物理学的測定法、および観察法、面接法、質問紙法、検査法、実験法など多様な測定手法の基礎的な考え方と実践法に関わる基礎知識を身につける。	1後	30	2	○			○			○	
○		言語学	日常、問題なく話している日本語を通して言葉とは何かを考える。世界の言語の普遍性と特異性について知る。	2通	60	2			○		○			○
○		音声学	日頃、気にもしていない音声上の出来事が、実は緻密に出来上がっていることを知る。理屈を知ると同時に、相手の音声上の特徴を知り、矯正出来る能力を養おうとするものである。	2通	60	2			○		○			○
○		音響学	「音」の物理学と聴覚の生理学を理解し、音響や聴覚機能に関する客観的記述方法、聴覚心理学的概念、音声や聴覚などの臨床的な評価方法などについて学ぶ。	1通	60	2			○		○			○
○		言語発達学	発達段階に沿って授業を進めていく。特に、乳幼児の場合、運動・認知が、発達段階を知る手がかりになるため、運動・認知の説明に重点を置く。児童期以降は、発達理論の説明を合わせて行う。さらに、語彙、構文では検査を取り入れ講義を行う。	3前	60	4	○			○			○	

○		社会福祉論	最近の制度・施策（特に、障害、高齢、児童家庭福祉）に対する具体的内容を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○
○		リハビリテーション概論	ST法、PT・OT法と各職種の役割、リハビリテーションの理念と歴史、領域、障害論、リハ技術論、リハ関連専門職の現状と課題、リハ専門職の教育について理解を深める。	1前	30	2	○			○			○
○		理学・作業療法概論	理学療法と作業療法関係、業務範囲の理解。作業療法を知り、それぞれの分野としてどのような連携ができるのかを探る。	3後	30	2	○			○			○
○		言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害について説明し、言語聴覚士の役割（重要性）について考える。	1通	60	4	○			○			○
○		失語症	失語症の定義、タイプ、症状、重症度、失語症の予後等についての知識の習得を目指す。	1後	30	2	○			○			○
○		失語症リハビリテーション学	失語症の言語聴覚療法（評価・訓練）についての知識を獲得する。	2通	60	2		○		○			○
○		成人系検査演習Ⅰ	言語聴覚士に必要な基礎知識と技法習得のために学ぶ。	2通	60	2		○		○			○
○		成人系検査演習Ⅱ	失語症および関連障害に必要な検査（評価）・訓練についての知識を学ぶ。	3通	60	2		○		○			○
○		高次脳機能障害学	高次脳機能障害について理解を含め、検査法、評価、訓練を中心に基本的知識と技術を習得する。	3前	30	2	○			○			○
○		言語発達遅滞	言語発達障害について具体的イメージを持つとともに、臨床の流れについて学習する。評価の重要性を理解するため、検査技法、評価の枠組み、記録法、報告書作成などおこなう。	3通	60	2		○		○			○
○		脳性麻痺	脳性麻痺（重複障害を含む）の基本的障害の理解を深め、その言語聴覚障害の特徴および指導・訓練について理解する。	3前	30	2	○			○			○
○		学習障害・広汎性発達障害	言語聴覚士として、学習障害・自閉症を中心とした発達障害をどのように評価し、アプローチするのかについて、理解を深める。	3後	30	2	○			○			○
○		小児系検査演習Ⅰ	言語聴覚士が言語発達の遅れをもつ児に実施する検査に関する知識、実技などを身につける。	2通	60	2		○		○			○
○		小児系検査演習Ⅱ	言語聴覚士として、検査結果を評価し、どのようにアプローチするのかについて、理解を深める。	3通	60	2		○		○			○
○		音声障害	音声障害とその治療法について学ぶ。	2通	30	2	○			○			○
○		機能性構音障害	機能性構音障害について、評価、訓練について学ぶ。	3前	30	2	○			○			○
○		器質性構音障害	器質性構音障害とその背景にある異常の基本的概念と知識を身につける。器質性構音障害および関連障害の評価・診断・治療に関する知識・技能・態度を身につける。	3前	30	2	○			○			○
○		運動性構音障害	運動障害性構音障害の鑑別診断、評価、リハビリテーションについて学ぶ。	3前	30	2	○			○			○

○		嚥下障害	言語聴覚士として、摂食・嚥下障害をどのように評価し、アプローチをするのかについて理解を深める。	3 後	30	2	○		○	○		
○		吃音	吃音臨床の基礎的能力を養うとともに、臨床の基本および実践能力を習得する	3 前	30	2	○		○	○	○	
○		言語聴覚演習Ⅰ	検査結果から評価を行い、訓練プログラムを作成できるようにする。	3 前	60	2		○	○		○	
○		言語聴覚演習Ⅱ	言語聴覚障害についての理解を深め、検査法、記録法、評価および訓練の知識と技術を習得する。	4 前	60	2		○	○	○		
○		聴覚障害学	STとして、聴覚障害者（児）に対し、最良と考えられる補聴器の適合・評価・装用指導等ができるようにオーディオロジー学、補聴学に基づいた理論と技術を習得する。	2 後	30	2	○		○		○	
○		聴覚障害検査演習	聴覚障害児・者の検査と評価について、実習を通じてより確実な知識と技術の習得する。	2 前	60	2		○	○	○	○	
○		小児聴覚障害学	聴覚障害児に対する言語聴覚士としての必要な知識の習得する。	3 前	30	2	○		○		○	
○		成人聴覚障害学	1, 2年次に学習した内容を応用し、臨床での働きかけにつなげる。	3 前	30	2	○		○	○		
○		臨床見学実習	3年次では見学実習として位置づけ、言語聴覚士の業務についての流れを中心に学ぶ。	3 後	90	2			○	○	○	
○		臨床実習	臨床現場において、言語聴覚士として必要な知識・技術について学ぶとともに、言語聴覚士に必要な知識の習得を目指す。	4 前	630	14			○	○	○	○
○		言語聴覚療法セミナーⅠ	将来STとして働くために、読む・書く・話す・聞くといった基本的なコミュニケーション能力を養うとともに、あいさつや言葉づかい等のマナー、責任感など、臨床家に必要な能力を身につける。また、学習・研究の仕方も学び、臨床家として学習、研究活動が続けることの重要性を学ぶ。	1 通	60	2		○	○	○		
○		言語聴覚療法セミナーⅡ	「聴く」「話す」「読む」「書く」の基本を学ぶと共に、研究活動に必要な知識を養う。	2 通	60	2		○	○	○		
○		言語聴覚療法セミナーⅢ	セミナー方式を用い、今までセミナーで行った研究をもとに、個人で研究を行う。	3 通	60	2		○	○	○		
○		言語聴覚療法セミナーⅣ	ゼミナール方式・授業形式を用い、これまで学んだ授業の集大成を行なう。国家試験に向けて、専門基礎分野・専門分野に関して、定期的に確認テストを行いながら、情報の整理・理解を行なう。また、模擬テストを実施し、必要に個別指導を行う。	4 通	60	2		○	○	○		
○		拡大・代替コミュニケーション	現在、重度の表出障害を持つ人たちのコミュニケーション方法確保のための研究領域にAAC（拡大・代替コミュニケーション）がある。本講義ではAACについて学にあたり必要とされるverbal・non-verbal communication, vocal・non-vocal communicationについて概括し、それをもとに様々なコミュニケーション技法・エイドについての理論・技術を習得する。	3 後	30	2	○		○	○		

○	情報科学	この授業ではコンピュータの基本操作と仕組みを学ぶと同時に、現在の情報社会での情報の活用力・実践力を身につけ、情報を科学的に理解する	1 通	60	2	○	○	○		
○	卒業研究	言語聴覚療法に関する修学の総まとめとして研究発表を行い、論文にまとめる。	4 前	60	2	○	○	○		
合計		科目	単位時間(162 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：4年以上在学し、別表2（3）に規定した単位（162単位3510時間以上）を取得しなければならない。 履修方法：講義・演習・実習 (留意事項)		1 学年の学期区分	前後期
		1 学期の授業期間	18週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。